



Level 7

2011年度 第1回

問題用紙

検定開始の合図があるまで、問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

じゅけん

●受検上の注意●

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしていたら、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

問題 I

文学を鑑賞するとき、忘れてはいけなことがある。それはその時代背景を頭に置いて理解することだ。そのためには、想像力こそ何よりも不可欠である。

「源氏物語」を読む際にも、私たちはどうしても現代の価値観で鑑賞しがちである。すると、文学の真の理解は得られなくなる。

「源氏物語」は、平安時代に紫式部によって書かれた物語で、舞台は宮廷という狭い世界のことである。現代とは価値観が全く異なる、特殊な世界が舞台である。

桐壺の帝は中宮、女御、更衣(注1)と数多くの女性に囲まれて暮らしていた。彼女たちの後ろ盾(実家)の身分によって、中宮、女御などの地位が決まり、桐壺の帝が愛した桐壺更衣は一段と身分が低い更衣だったのだ。

君たちは帝は大勢の女性に愛されてうらやましいと思うかもしれない。でも、それが現代の価値観なのである。

大勢の女性に取り囲まれるということは、大勢の女性をすべて身分に応じて愛さなければならないことを意味する。つまり、誰も本当に愛してはいけないのだ。そこから悲劇が生まれる。

後宮(注2)において、后たちは一人一人部屋を与えられ、大勢の女房たちとともにそこで暮らすことになる。帝が一人の女性しか愛せないのなら、他の女性たちは一体何のために宮廷で暮らしているのか？

それでもその女性たちは一日中部屋にこもって、帝が自分に部屋を訪れるのをじっと待っていないなければならない。彼女たちは現代の女性と違って、憂さ晴らしに外へ飲みに行ったり、別の男性を見つけようとするなど到底できないのだ。

平安時代のお姫様は、今の若い女性が夢見るようなロマンティックな世界に生きているわけではない。

第一、光と音が現代と異なる。

想像してみてほしい。夜になると、お姫様は何人かの女房に囲まれ、紙燭の周りでひっそりとしている。紙燭は油の中心に芯があるといった灯りで、その周辺をほんの少し明るくするくらいである。

今のように、テレビもパソコンも携帯もゲームも漫画もない。部屋の外に出ることもできない。その時の静寂。一步部屋から出ると、漆黒の闇。

そして、自分の部屋の前を、帝に呼ばれて通り過ぎていく、桐壺更衣とその女房たちの衣擦れの音。それを毎晩毎晩息を潜めて聞かなければならない。

あの女がいるばかりに。あの女のために。

こうした情念が後宮全体を包み込む。お姫様が帝の寵愛を受けることは、その実家が栄えることでもある。後宮での帝の愛は表の政治権力とも密接につながっている。

帝が桐壺更衣を愛すれば愛するほど、彼女を追いつめていく。すべてが桐壺更衣を精神的に追いつめていく。

やがて、桐壺更衣は重い病気にかかるのだが、これも自然の成り行きかもしれない。

死ぬ前の桐壺更衣の最後の願いが、「どうか里下がり（宮中から実家に帰ること）をさせてください」というものだった。今まで桐壺更衣は何度も里下がりを願い出たが、帝はそのたびに受け入れなかった。更衣のいない世界など考えられなかった。それほど一途に愛していたのだ。

ところが、今度ばかりは承諾せざるをえなかった。なぜなら、宮中は死を汚れたものとして忌み嫌う。つまり、桐壺更衣がもう助からないと分かったからこそ、里下がりを許可したのである。

それが桐壺更衣との最後だった。

桐壺更衣の死を知ったとき、帝は部屋に閉じこもり、何日も何日も泣き続けた。

君たちは帝なら何でも思い通りになるかと思っっているのかもしれない。だが、桐壺の帝はたった一人の女性さえ愛することを許されなかったのだ。

人を愛すれば愛するほどその人を死に追いやってしまう。帝はこのような苦しみを二度と味わいたくなかった。だから、桐壺更衣との子供である光源氏を、元服と同時に臣下に下ろすしかなかった。

源氏物語の作品世界はこうした不条理の中で成立しているのである。

文学はその作品が成立した時代背景の理解が不可欠である。過去に生まれた作品を、過去の価値観で語ったところで、やはり真の鑑賞とは言えないのだ。

(注1) 中宮、女御、更衣 …… 帝に仕えた女官の呼称

(注2) 後宮 …… 帝の後妃が住む場所

第一問 筆者の筋道の立て方としても最も適切なものを、次の選択肢から選んで記号で答えなさい。

- ア 前書きから始まり、次に本題に入る。
- イ 具体例から始まり、それを一般化する。
- ウ 始めと終わりが一般化された話である。
- エ 前提から本題、そして結論となる。

第二問 次の一文が本文から抜けています。本来の場所に戻したとき、その直後の五字を抜き出さない(句読点を含む)。

ところが、帝は一番身分の低い桐壺更衣を死ぬほど愛してしまった。

第三問 本文の後半で一箇所間違った語句を使ったために、論理的におかしくなったところがあります。その語句を二字で

抜き出し、正しい二字の語句を答えなさい。

第四問 筆者が現代の価値観によるものと述べているものにはA、当時の価値観によるものと述べているものにはBを、各

選択肢それぞれに答えなさい。

ア 帝は大勢の女性に囲まれてうらやましい。

イ 女性が帝の寵愛を受けることは、家が栄えることになる。

ウ 平安時代のお姫様はロマンティックな生活をしている。

エ 帝なら何でも思い通りになる。

オ 帝はたった一人の女性を真に愛することができない。

第五問 帝はなぜ光源氏を臣下に下ろしたのですか。その理由に該当する箇所を、三十字以内の一文で抜き出しなさい。

第六問 帝が桐壺更衣の里下がりななぜ許可したのか、五十字以内で答えなさい。

問題Ⅱ

次の文章は太宰治「走れメロス」の冒頭箇所です。問題文を読んで、後の問に答えなさい。

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。(1) 邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮しだ。この妹は、村の或る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。結婚式も間近かなのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣裳やら祝宴の御馳走やらを買いに、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだ。(2)、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。(3) している。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも皆が歌をうたって、まちは賑やかであった筈だが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老爺に逢い、こんどはもっと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺のからだをゆすぶって質問を重ねた。老爺は、あたりをはばかりる低声で、わずか答えた。

「 a
「 b
「 c
「 d

「はい、はじめは王様の妹婿さまを。それから、御自身のお世嗣を。それから、妹さまを。それから、妹さまの御子さまを。それから、皇后さまを。それから、賢臣のアレキス様を。」

「おどろいた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございません。人を、信ずる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮しをしている者には、人質ひとりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

メロスは、単純な男であった。買物、背負ったままで、そのそ王城にはいつて行つた。(4) 彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出て来たので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは、王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであつたか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳を以て問いつめた。その王の顔は蒼白で、眉間の皺は、刻み込まれたように深かつた。

「市を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑した。「仕方の無いやつじゃ。おまえには、わしの(5) がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立つて反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑つて居られる。」

「疑うのが、正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もとも私慾のかたまりさ。信じては、ならぬ。」暴君は落着いて呟き、ほっと溜息をついた。「わしだって、平和を望んでゐるのだが。」

「なんの為の平和だ。自分の地位を守る為か。」こんどはメロスが嘲笑した。「罪の無い人を殺して、何が平和だ。」

「だまれ、下賤の者。」王は、さっと顔を挙げて報いた。「口では、どんな清らかな事でも言える。わしには、人の腹綿の

奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、いまに、磔はりかになつてから、泣いて詫わづらびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王は伶俐りりょうだ。自惚うぶれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟で居るのに。命乞いのちこいなど決してしない。ただ、——」
と言いかけて、メロスは足もとに視線を落し瞬時しゆんじためらい、「ただ、私に情をかけたつもりなら、処刑しゆけいまでに三日間の日限を与えて下さい。たった一人の妹に、亭主ていしゆを持たせてやりたいのです。三日のうちに、（6）。」

「ばかな。」と暴君は、噎しわがれた声で低く笑つた。「とんでもない嘘を言うわい。逃がした小鳥が帰つて来るといふのか。」
「そうです。帰つて来るのです。」メロスは必死で言い張つた。「私は約束を守ります。私を、三日間だけ許して下さい。」

妹が、私の帰りを待つているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この市にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いて行こう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮まで、ここに帰つて来なかつたら、あの友人を絞しめ殺して下さい。たのむ、そうして下さい。」

それを聞いて王は、残酷ざんくな気持で、そつと北叟ほくそう笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰つて来ないにきまつている。この嘘うそつきに騙だまされた振りして、放してやるのも面白い。そうして身代りの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代りの男を磔はりか刑けいに処してやるのだ。世の中の、正直者とかいう奴輩ばいにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを、聞いた。その身代りを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰つて来い。おくれたら、その身代りを、きつと殺すぞ。ちよつと（7）て来るがいい。おまえの罪は、永遠にゆるしてやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。いのちが大事だつたら、（7）て来い。おまえの心は、わかっているぞ。」

メロスは口惜くししく、（8）踏ふんだ。ものも言いたくなくなつた。

竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、佳よき友と佳よき友は、二年ぶりで相逢かひあうた。メロスは、友に一切の事情を語つた。セリヌンティウスは無言で首肯うなづき、メロスをひしと抱きしめた。友と友の間は、それでよかつた。セリヌンティウスは、繩なわ打たれた。メロスは、すぐに出発した。初夏、満天の星である。

第一問 (1) には接続語が入ります。どのような役割の接続語が入るのか、次の選択肢から選びなさい。

ア 前の流れを受けて、それをさらに発展させる役割。

イ 前の流れを受けて、それを引っ繰り返す役割。

ウ 前の内容を受けて、それを言い換える役割。

エ 前の内容を受けて、その具体例を挙げる役割。

第二問 次の一文の要点を、十五字以内でまとめなさい。

この妹は、村の或る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。

第三問 (2) にひらがな二字の助詞を入れなさい。

第四問 (3) に入る言葉を、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア どやどや イ ひっそり ウ ぼんやり エ すつきり

第五問 「 a 」 「 b 」 「 c 」 「 d 」 に入る言葉を、次の選択肢から選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア たくさんの人を殺したのか。

イ なぜ殺すのだ。

ウ 悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持つては居りませぬ。

エ 王様は、人を殺します。

第六問 (4) に入る言葉を、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア やがて イ ついに ウ たちまち エ とうとう

第七問 (5) に入る言葉を、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 孤独 イ 希望 ウ 願望 エ 歎喜

第八問 次の一文は (6) に入る文ですが、二つの語句が入れ替わっているために間違った文になっています。その二つの語句を答えなさい。

私は 村で ここへ 挙げさせ、 必ず、 結婚式を 帰って来ます。

第九問 本文中二箇所ある (7) には、ひらがな三字が入ります。次の選択肢のひらがなを組み合わせることで答えなさい。

れいそおあてく

第十問 (8) に入る言葉を、次の選択肢の語を組み合わせることで答えなさい。

唇 怒 団 足 駄 手 顔 地

問題Ⅲ

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人間は弱肉強食の自然界において、食べる側なのか、食べられる側なのか。仮に、人間がライオンや虎のような食べる側に生まれついたらしよう。果たして、私たちは死に物狂いで暴れるカモシカを一噛みで倒すことができるだろうか。その身体を鋭い爪で裂くことができるだろうか。おそらく私たちの歯は折れ、爪はぼろぼろになってしまっただろう。では、今度は食べられる側として考えてみよう。私たち人間は空を飛んだり、素早く木に登ったり、地面に穴を掘ったりと、逃げるための特別な手段を持ち合わせていない。第一、ライオンに追いかけて無事に逃げる事ができる人間など、そう多くはないだろう。さらに中途半端な身体の大きさである。これでは肉食獣の標的になりやすいし、ちよつとしたすき間に潜り込むこともできない。つまり、私たち人間は食べられる側としてはもともと生まれついていないのだろう。食べる側でも食べられる側でもないということ、弱肉強食の自然界には適応しない肉体を持つて生まれてきたということである。その上に、繁殖能力も極端に持ち合わせていない。これでは絶滅してもおかしくない。ところが、この自然界に不適合な肉体を持った人間は、何と逆にこの自然界を支配してしまった。それはなぜか。人間は道具を持つことで初めから人間であったのではなく。鋭い牙や爪がなくても、棍棒や刃物を持つことができた。遠くにいるすばしっこい獲物でも、弓矢で射ることができた。やがて、馬車などの乗り物を発明することによって、速く移動することができるようになった。それが自転車、自動車、電車となり、今ではどんな動物もそれに追いつくことはできなくなった。そう考えると、人間は道具を持つことで初めて自然界で生き抜くことができたのだ。さらに、人間の手足、頭脳、目、耳などの機能を機械に与えることで、より豊かな暮らしをすることができた。たとえば、重たいものを持ち上げるクレーン車や細かい作業を大量にできる工場の機械などは人間の手の延長であるし、自動車や電車は足、コンピューターは頭脳、天体望遠鏡や電子顕微鏡は眼、レーダーなどは耳の延長である。大切なことは、機械はすべてもともと人間の持っている機能を移植して創られたものだということだ。そういった

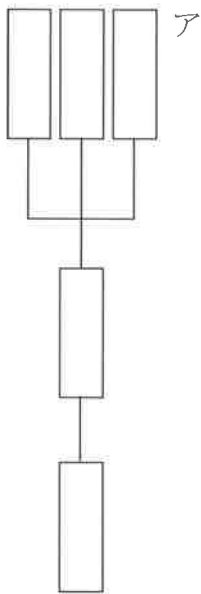
意味では、機械は巨大な人間だとも言える。もう一度繰り返そう。私たちは自分の働きを機械に与え、巨大化することで、初めて自然の中で生きのびることができたのだ。それゆえ、たとえ巨大な人間となり得た機械が、人間の制御下から自立し、その先に人間を滅ぼす方向へ発達しようとも、私たちはもはや、道具や機械を手放すことができないのである。これほど恐ろしいことはない。

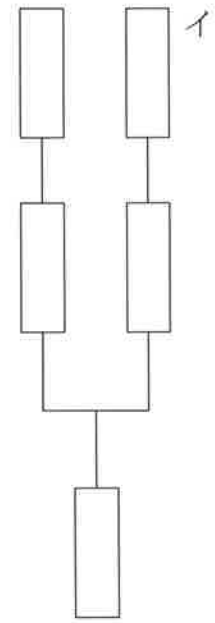
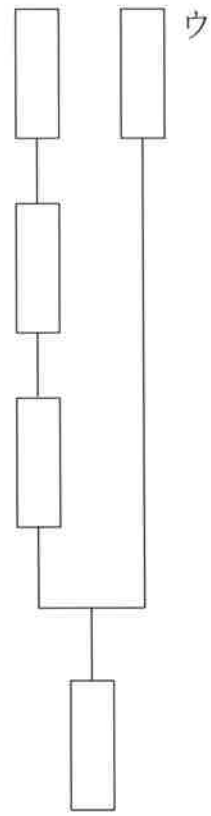
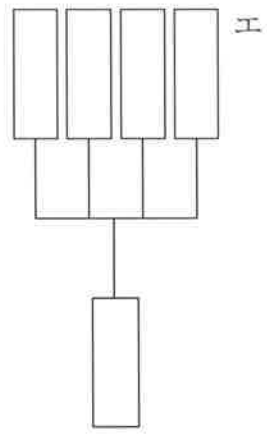
第一問 傍線部の文の論理構造を、次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

例 美しく整備された街並みに夕日が沈んでいく。



人間は もはや 道具や機械を 手放すことが できない





第二問 次の一文を本文中のどこに戻せばいいのか、該当箇所の直後の五字（句読点を含む）を抜き出さない。
つまり、私たち人間はもともと食べる側としては生まれついていないのである。

第三問 問題文を三つの段落に分けて、第二・第三の冒頭五字（句読点を含む）を抜き出さない。

第四問 第一段落と第二段落の要点を、それぞれ三十文字以内で書きなさい。

第五問 人間が造り出したもので、人間を滅ぼす可能性のある例を一つ、自分で考えて答えなさい。

問題Ⅳ

制服の是非について、クラスで討論会がありました。
以下が、その時に出た意見です。

A君 やはり学校の制服は、その学校の生徒だつていうことが、本人にも周りにも意識されるから、賛成です。
先生 帰属意識を持つことが出来るということですね。

A君 はい。それに自分の学校に誇りを持つことができます。

B子 私は可愛い制服ならいいけれど、ダサイのはいや。着たくないもの。この学校も制服が好きだから選んだのよ。
先生 でも、どんな制服が可愛いかなんて、人によって違うんじゃないかな？

C君 それだよ、それ。ファッションって、個人のものでしょ。人によって決めつけられるなんて、いやだな。B子はこの学校の制服が気に入っているかもしれないけれど、嫌いな人だっているんだから。

B子 でも、学校で決められたことだから、従うのは当然よ。

D子 それが強制なの。何でも決められたとおりになら、自主性も芽生えないし、自由がなくて窮屈きりつこだわ。

A君 でも、僕たちはまだ大人ではない。社会に出る前に、規則を守るという習慣をつけることも大切だと思うよ。

D子 それよりも、自分で考えたり、自分で判断することを学ぶ方が大切だと思うの。ただ決められたことを何も考えずに従う大人になんかなりたくない。

B子 私、自主性を主張するよりも前に、規則を守ることができるようにすることの方が大切だと思う。
先生 制服一つ取っても、それがなぜ必要なのか、一度は考えてみる必要があるんだね。

では、今日の討論会は、終わり。

第一問 A君、B子、C君、D子のうち、制服に反対なのは誰と誰ですか？

第二問 制服の是非について、対立点を次のようにまとめました。()に入る言葉を、討論会からそれぞれ抜き出しなさい。

賛成

(1) を持つことができる。

↑↓

ファッションは (2) のもの。

(3) を守ることが大切。

↑↓

(4) や自由がなくなる。

反対

第三問

あなたは学校の制服に賛成ですか、反対ですか？

賛成／反対それぞれの立場に立って、その理由を討論会の内容以外から自分で考えて三十字以内で答えなさい。